

要旨

目的

看護職員(以下職員)の他施設の働く環境への関心のあり方が、ワーク・エンゲイジメント(以下 WE)とバーンアウト(以下 BO)に関連するのかを明らかにすることである。

方法

研究協力に同意の得られた首都圏の総合病院 2 施設に就業する職員を対象に、無記名自己記入式質問紙法による横断研究を行った。各病院の看護部長を通じて 1,360 名に配布し、各自が返信用封筒に入れ返送する方法で 275 名から回答を得た。有効回答は 273 名であった(有効回収率 20.0%)。個人要因、他施設の働く環境への関心のあり方、既存の 5 尺度を参考に「客観的情報が自他施設の比較を可能にする」という観点から作成した自施設の働く環境の現状の把握・他施設の働く環境に関する情報収集行動、ワーク・エンゲイジメント尺度 9 項目版(Shimazu ら,2008)・日本語版バーンアウト尺度(久保ら,1998)の各合計得点を分析に使用した。

他施設の働く環境への関心のあり方を回答の内容から 3 群に分け、「全く関心を持っていない」と答えた群と合わせて、他施設関心の有無 4 群とし、各群の人口統計学的特性を把握した。また、自施設の働く環境の現状の把握のうち看護師の専門職性測定尺度(志自岐,1998)から作成した看護ケアの 8 項目を合計し、信頼性係数で内的一貫性を、主成分分析で一因子構造であることを確認して、自施設ケア満足度とした。WE 合計得点と BO 合計得点をそれぞれ従属変数として、他施設関心の有無 4 群と自施設ケア満足度合計得点の分散分析を行った。さらに、個人要因を調整変数として、同様の項目で一般線形モデルでの分析を行った。

結果

他施設への関心の有無と WE と BO それぞれとの一元配置分散分析の結果、WE が高く、BO が低い者は、他施設に全く関心を持っていない傾向にあるが、全く関心を持っていないと回答した者は 1 割以下で、約 9 割の職員が他施設に関心を持ちつつ勤務していることが明らかとなった。

分析の結果、自施設のケアに満足しているほうが WE は高いが、自施設のケアの満足・不満足の影響を除いても、転職意思がなく前向きに他施設に関心を持ち、比較を行っていることと WE の高さは有意に相関があること、また、自施設のケアに満足しているほうが BO は低い、自施設のケアの満足・不満足の影響を除いても、転職意思がなく前向きに他施設に関心を持ち、比較を行っていることと BO の低さは有意に関連があることが明らかになった。これは、WE や BO に影響を及ぼしうる個人要因で調整をした際も、変わらず有意な関連があった。

結論

転職意思とは関係なく、他施設に関心を持っている職員が存在した。自施設をよりよくしようという思いから他施設の優れた点に関心を持つ職員は、自施設ケアの満足・不満足に関係なく、仕事に対してポジティブで充実した心理状態で働くことができていることが示唆された。

(1,143 文字)